



創立1880年

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL http://tokyo.ymca.or.jp
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 菅谷 淳

東京YMCA

7・8

2022

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

地球市民としての誓い

世界YMCA大会開かれる —過去最多2400人が参加



7月3日(9日)、「第20回世界YMCA大会」がデンマークのオーフスで開催され、日本からも東京YMCAの職員4人を含む44人が参加しました。世界120の国と地域で活動するYMCAから関係者が一堂に会する一大イベントとして4年に一度開催される世界大会。今回は史上初のハイブリット開催となり、現地に1200人、オンラインで1200人が集う、過去最大規模の大会となりました。

新指標を採択

感染症拡大、武力紛争、難民・避難民、飢餓や貧困、人権侵害、そして、地球の持続可能性の危機。待ったなしの課題

多様性と包摂

「誰一人取り残さない」を確実に遂行し、地球規模の課題解決を効果的に



世界同盟の会長には、レバノンYMCAのソヘイラ・ヘイク氏(写真左)が選出され、女性会長が2代続くことに。新役員11人もユース世代と女性が半数を超える構成となった



前国連事務総長・潘基文氏が基調講演。「ビジョン2030」への賛同と激励が贈られた(中面に記事有)

タイムリミットは

「ビジョン2030」は、一人ひとりの個性と多様な背景を持つ参加者への配慮です。メインセッションは5カ国語に同時通訳され、礼拝では民族楽器が奏でられ、テーマ講演には世界中から講師が招かれました。



総主事カフェ

東京YMCA総主事 菅谷 淳

総主事カフェによること。先日、デパートの広場にある3人掛けのベンチの真ん中に、「X」印が貼ってあるのを見かけました。近頃街中でよく目にするこの印、ご存知の方も多しと思えますが、隣の人の距離を保つため「ここには座れません」という印です。

「安定」のイメージ、そして「禁止」「不正」を連想させるなど、否定的で暗い印象を受けます。当然私は、「O」を選びます。すると、「X」は、ギリシャ語で「カイ」と読み、キリストを表します。クリスマスです。「Xmas」と書くのはそのためです」と上林牧師。「さらにXは、少し手を添え傾けると十字架になります。なるほど、YMCAの総主事として選ぶべきは、Xであったのかと思いましたが、Xであったのかと思いません。

スは、そのような人にこそ寄り添って、自らの命を捧げました。世の中の「X」に手を差し伸べ、その先で自ら十字架にかけられて私たちの罪を一手に引き受けてくれました。そのような愛に溢れたイエスの生き方に学び、これを体現するために創られたYMCAに仕える総主事にも、「X」を大切にしたい。それが上林牧師のメッセージであったのだと受け止めています。

貧しい人、個性の強い人、遅い人、負けた人、弱い人、できない人など、見渡せば「X」のレッテルを貼られた人が世間にはたくさんいます。しかしイエスが良い解釈でした。

ビジョン2030

2030年に向けて世界のYMCAが一致団結するための指標。2年間の協議を経て導き出された4つの柱(重点項目)から成り、すべてのYMCAがこれらに力を結集させることで、課題解決に向けた働きと社会へ与えるインパクトの最大化を目指す。

1. Community Wellbeing
—心と身体の健康のために
 2. Meaningful Work
—やりがいのある仕事と環境の創造
 3. Sustainable Planet
—持続可能な地球のために
 4. Just World
—公正な世界の実現のために
- (2022年7月第20回世界YMCA大会採択)

赤三角

過去多くのインパクトを社会に与えてきた。そこには常に「コラボレーション」があった。青少年教育分野で言えば、先日天に召された坂口順治さんとのそれも一つであった。感謝しても足りないほど。現在の私たちの活力となっている。同様にキャンプ場の取得も、専門学校の開校も、新しいプログラムの導入も、コラボレーションの賜物。結果として人びとの心や社会に変容をもたらしてきた

■親子で着衣泳を体験

ーウォーターセーフティーキャンペーン



ウエルネス東陽町では、6月19日、幼児・小学生の親子を対象に着衣泳体験会を実施。34人の親子の参加がありました。この体験会は、全国YMCAの「ウォーターセーフティーキャンペーン」の一環で毎夏開催しているもので、山手センターでも同様に体験会が行われました。

当日は、服を着たまま上向きで、さらに、ペットボトルを持って浮く方法やコツなどを実技を通して学びました。また、おもちゃが散乱する場所を歩いたり、スタッフが起こす波の中を移動したりするなど、障害物の多い川や海で体を動かす不自由さも体験しました。

YMCAは、1981年から40年以上に渡って水上安全教育に取り組んでいます。水の事故ゼロを目指して、必要な知識と身を守る術を広める活動をこれからも続けていきます。(広報室)

■ウクライナ緊急支援 チャリティーコンサートを開催



6月24日、避難生活を送るウクライナの人びとや、日本国内に避難を希望する人びとを支援するためのチャリティーコンサートが開催されました。会場の日本キリスト教団霊南坂教会には、約120人が来場。飯埝子さん(オルガン)、方波見愛さん(ピアノ)、飯頭さん(ヴィオラ)、西山利佳さん(朗読)による、音楽と言葉の協演を楽しみました。

コンサートでは、「平和の祈り」「くるみ割り人形」などが演奏され、さらに、オルガン、ヴィオラの演奏と共にウクライナ民話絵本『てぶくろ』が朗読されました。演奏の合間には、YMCAが行うウクライナ支援活動について、現地から届いた映像を交えた報告もなされました。終演後に寄せられた募金の総額は、217,325円。現在も大きな不安と苦しみの中にあるウクライナの人びとを少しでも勇気付けることができるように、支援活動に大切に用いてまいります。(総務部 松岡 秀実)

■主要都市のYMCAで課題を共有

ーYMCA世界大都市会議



7月3日～8日、世界YMCA大会に合わせて「YMCA世界大都市会議」が同じオフィス、デンマークで開催されました。世界大都市会議は、世界の主要都市にあるYMCAが固有の課題を共有し、スタッフ間で交流やスキルアップを図ることを目的とする国際会議です。現在日本からは、東京と大阪YMCAが登録し、参加しています。

今回は、世界各地の管理職スタッフ約30人が参加。コロナ危機への対応が中心的な議題となり、不安障害やうつ病に苦しむ人の数が約3倍増したアメリカの事例等が紹介され、課題図書『夜と霧』(ヴィクトール・フランクル著)からヒントを得て話し合いました。また、財政的に困難な状況に陥ったYMCA間で吸収や合併の動きが加速する一方、協力関係が強化されていることや、スタッフの配置換え、ユース世代への権限委譲など、各地の取り組みや運営上の工夫が共有されました。

ウクライナYMCAからヴィクター・セルブプロフ総事も参加。人道支援活動の更なる協力が呼び掛けられました。避難民問題がヨーロッパを中心に大きな影響を及ぼす中で、YMCAは「サポート・ウクライナ」と「プロジェクト・ロシア&ベラルーシ」をその方針とすることを確認しました。3年ぶりの開催となった本会議も有益な時間となりました。(国際・総合教育事業部 松本 数実)

基調講演

「包摂的で集合的なアクションを」

前国連事務総長
パン・キムン
潘 基文氏



私には、忘れられない出会いがあります。米国に短期留学中にホワイトハウスを礼訪したときのこと、時のジョン・F・ケネディ大統領と話す機会に恵まれ、「Good works have no borders or nationalities (よい行いとは、あらゆる障壁を越えていくものだ)」と教えられました。地球市民として長年働いてきた私の原点にある言葉です。

今、地球の未来のために求められるのは、包摂的*1で集合的なアクションです。その意味で、「ビジョン2030」(1面)がこの大会で採択されたことを心から歓迎します。これは、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」とも深く共鳴する指標であり、世界中のYMCAで活動する人びとの結束をさらに強める要となるでしょう。

ところで、包摂的な社会の実現には、すべての人に自分の考えを表現し、意思決定のプロセスに参画する機会が保障されていることが必要となります。この機会が不当に奪われている人が世界にいくに多いことか。例えば、教育の欠如も、人から機会を奪うものです。

そして今、私の最大の懸念は、地球温暖化による気候変動対策が間に合うかどうかということです。SDGsの17の目標は、どれも同じくらい重要で相関性のあるものですが、ここで敢えて一つ最優先を選ぶとしたら、それは目標13「気候変動に具体的な対策を」になるでしょう。気候変動は間違いなく喫緊の課題です。先ず

(抜粋翻訳:文責広報室)

- *1 [包摂的] 誰も排除されない、取り残されないこと。社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)は、誰もが社会に参画する機会を持つこと
- *2 [パリ協定] 温暖化対策として1992年に国連で採択された「気候変動枠組条約」に参加する国々の2020年以降の新しい国際的な枠組み。目標は今世紀末までに世界的な気温上昇を産業革命前に比べて1.5°Cに抑えること。達成のために年限付きで温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすること(カーボンニュートラル)等が取り決められている

参加報告

「抗い、分かち合いたい」

職員 日野 枝里子 (広報室)

オンラインで分団討議。メンバーは、香港、シンガポール、モンゴル、コロンビア、ノルウェー、マレーシア、日本からの7人だった



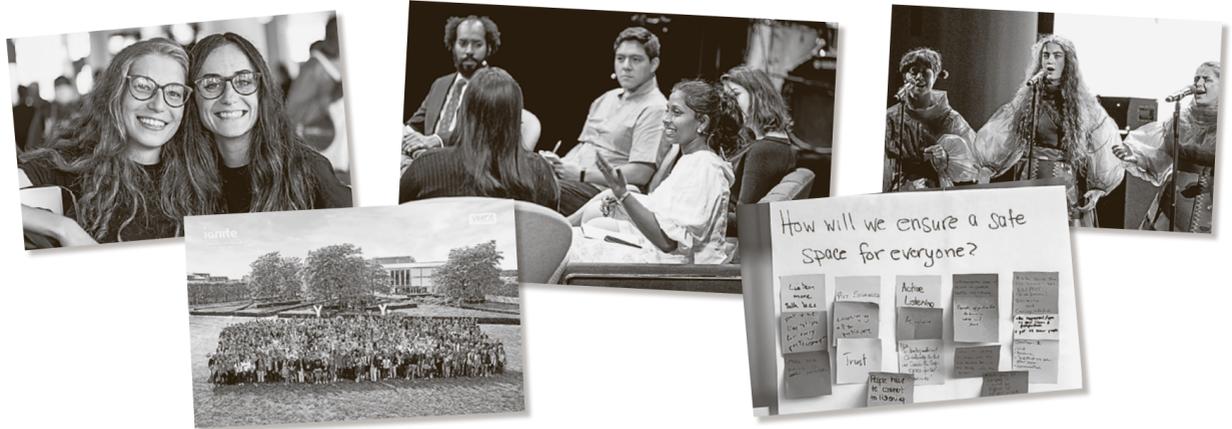
毎日の礼拝では、仏教やヒンドウー教、イスラム教徒のメンバーのメッセージも分かち合われた。「イスラム教から慈悲と思ひやりの心を学んだ。どのような信仰もコアにあるものは同じ」とShenzazさん

- *3 [カーボンニュートラル] 温室効果ガスの排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにすること。日本は2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言している
- *4 [カーボンフットプリント] 直訳すると「炭素の足跡」。商品やサービスの原材料調達から廃棄に至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO2に換算したものを、イギリスのWWF(世界自然保護基金)のウェブサイトでは、いくつかの質問に答えて自分のカーボンフットプリントの量を計測することができる(https://footprint.wwf.org.uk/#)
- *5 [Climate Justice(気候正義)] 経済先進国の人びとの持続可能でない行為が多大な環境負荷をかけている一方で、そのしわ寄せが貧困層や経済的弱者に及んでいる不正正を是正しようという考え方

Ignite

変化の灯、ともされる ー第20回世界YMCA大会

2022年7月3日～9日、デンマークのオフィスに70カ国から2,400人が集い(現地1,200人、オンライン1,200人)、「IGNITE(発火、喚起の意)」をテーマに第20回世界YMCA大会が開催されました。大会のハイライトを参加者の声と共にご紹介します。



歴史

はじまりはパリ、1855年

世界YMCA大会は、世界中からYMCAの職員、会員、ボランティアなどの関係者が集い共通の理念目的や課題、運営組織などを決める国際会議です。その第1回は、1855年にパリで開催され、9カ国から99人の若者が参加しました。世界大会の開催を最初に提案した人物は、後に国際赤十字を創設し、初のノーベル平和賞を受賞したアンリ・デュナン、当時若干24歳です。故郷ジュネーブにおけるYMCA設立にも携わったデュナンは、世界に拡がりつつあったYMCAの働きが限定的かつ一過性のものとならないよう早くから国際的な協働の必要性を訴えていました。デュナンに賛同し、共に大会開催に向けて奔走したのも20～30歳の若き活動家たち。彼らの行動力によって実現した第1回大会で「世界YMCA同盟」が結成され、これに加わるための基準を文章化した「パリ基準」(右記)

パリ基準

われら世界のYMCAは、イエス・キリストを聖書に従ってわが神わが救い主と仰ぎ、信仰とその生活において彼の弟子でありたいと願う青年たちをつとし、イエス・キリストの精神が広く青年の間に生かされるよう、その努力を結集する。

ビジョン2030 (4つの重点項目)

1. Community Wellbeing
ー心と身体の健康のために
2. Meaningful Work
ーやりがいのある仕事と環境の創造
3. Sustainable Planet
ー持続可能な地球のために
4. Just World
ー公正な世界の実現のために



第20回世界大会では、「ソソヨYMCA」が新たに加盟